

# Perplexity Patents 評判サマリー

Claude

## 基本情報

2025年10月30日にベータ版として全世界で無料リリース。自然言語での特許検索を可能にする世界初のAI特許リサーチエンジニアント

## 主な評価ポイント

### ✓ 高評価の要素

- 1. アクセシビリティの革新** 複雑な Boolean 検索や専門知識が不要で、「AIによる言語学習の特許は?」といった自然な質問で検索可能。従来は高額な専門データベースや弁護士費用が必要だった特許調査を民主化
- 2. セマンティック検索の強み** 「フィットネストラッカー」の検索で「アクティビティバンド」「健康モニタリングウェアラブル」なども自動検出し、キーワード完全一致では見逃す先行技術を見出す
- 3. 包括的な情報源** 特許データベースだけでなく、学術論文、公開コードリポジトリ、ブログなども検索対象とし、先行技術調査の網羅性を向上
- 4. 会話型インターフェース** コンテキストを維持しながらフォローアップ質問が可能で、関連トピックも自動提案

### △ 懸念点・限界

- 1. 専門家からの慎重な評価** LinkedIn の弁理士は「予備調査ツールとしての価値は認めるが、詳細な法的分析への過度な依存は避けるべき」と警告
- 2. 精度の課題** 日本の特許調査専門家による検証で、被引用回数など詳細データの正確性に問題を確認。「それっぽい回答」が出力されるため注意が必要

**3. 監査証跡の不足** 本格的な実務利用には、検索の再現性、監査証跡、既存ワークフローへのエクスポート機能の充実が今後の課題

**4. 企業の信頼性問題** Perplexity 社自体が複数の著作権侵害訴訟に直面しており、データ収集手法への批判が継続中

---

## 専門家の見解

IPWatchdog は「エージェント型 AI が特許実務を変革する新しいパラダム」と位置づけ、従来の単一検索から目標指向型ワークフローへの転換を評価

競合環境分析では、Google Patents、WIPO Patentscope、PatSnap など既存ツールとの差別化要素として「自然言語優先の AI ワークフロー」を挙げるが、カバレッジの鮮度や監査機能で課題あり

---

## 推奨利用方法

### 適している用途:

- 初期段階の先行技術調査
- 新規性の予備チェック
- 競合技術のランドスケープ把握
- 非専門家による特許情報アクセス

### 推奨されない用途:

- Freedom-to-Operate の最終判断
  - 訴訟用の無効資料調査
  - 正確な引用データが必要な分析
- 

## 日本での反応

日本の特許調査専門家からは「コンセプトは革新的だが、被引用回数などの詳細データの精度に課題」との指摘。EC事業者向けメディアでは「中小企業の特許調査の民主化」として期待

**結論：**リリースから約1週間のため長期評価は未確定だが、「特許知識へのアクセス民主化」という理念は高く評価される一方、実務利用には専門家による検証が必須との見方が主流。予備調査ツールとしての価値は認められるものの、正式な法的判断には従来の専門ツールとの併用が推奨されています。